

異常気象はなぜ起きるのか

異常気象とは

異常気象とは、気象庁が「ある場所（地域）・ある時期（週、月、季節）において30年に1回以下で発生する現象」と定めている。

異常気象は一般的に過去の現象よりも大きく外れたものの事を指す。大雨や暴風等の激しい数時間の気象から、数か月も続く干ばつ、極端な冷夏・暖冬まで含む。また、気象災害も異常気象に含まれることがある。

地球温暖化とは関係あるのか?

個々の異常気象を分析してみると多くの場合、偏西風が関係していることがわかった。上空の偏西風が通常より異なる位置を流れる状態が続いたことや、熱帯地域の対流活動の影響が遠い場所に伝わったことなど、地球の大気と海洋の自律的な変動による自然のゆらぎが1方的に大きく振れた時に、平年と比べ著しい高温となることがわかる。となることがわかります。このような自然のゆらぎは、地球の気候システムに元々備わった性質であり、地球温暖化が原因で発生したと言うことはできない。

よって地球温暖化が原因で異常気象が発生するとは限らない。

様々な取り組み ↓



地球温暖化に関係するのは…

大気中の温室効果ガス濃度の増加に伴って、世界のほとんどの地域で長期的に気温が上昇しています。言い換えると、「平年の気温が昔に比べ高くなっている」と言います。上述の自然のゆらぎによる平年の気温からのずれの程度が同じであつたとしても、平年の気温そのものが高くなっているために、過去にはほとんど経験されなかつたような著しい高温が発生する確率が高まつていると考えられます。上はあくまで、「確率」です。しかし、

過去数十年にわたる観測データを分析すると、日本を含む世界各地で、顕著な高温の発生頻度が増えていることが分かっており、このような長期的な増加傾向は、地球温暖化の表れであると考えられます。



異常気象が発生すると・・・

とくに目立っているのが、気候の激しい変化です。

日中暑かったと思ったら、夕方以降急に冷えてきて、対処に困るなんてことがありますよね。

寒暖差も、10°C以上あるのが普通になってきました。時期によってはインフルエンザにかかりたり、熱中症にかかりたりする人が年々増えてきています。

異常気象には海水温度が関係していた？

異常気象には、ある共通点がありました。

自然災害↓



意外なことですけど、海水温度です。

近年、地球温暖化が問題視されていますが、海水温度も同レベルで問題視され始めていることをご存知でしょうか。

なぜなら、地球温暖化と海水温度は、密接な関係にあるからです。

よく「地球温暖化が進んでいるから、南極の氷が溶け始めている」と聞いたことはないでしょうか。

南極の氷が溶け始めていることも事実なのですが、もっと重要視した方が良いことがあります。

まとめ

①異常気象は地球温暖化でできた物とは限らない。



主に偏西風の影響

②残念ながら、地球温暖化と海水温度の上昇を、人工的に防ぐ術はありません。

参考文献 ↓

提供：気象庁 サイト名：気候・異常気象について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq19.html>

おすすめのサイト ↓

提供：株式会社ウェザーニューズ サイト名：最近の気象現象の変化について

https://www.soumu.go.jp/main_content/000526164.pdf

提供：エス・イー・シーエレベーター株式会社 サイト名：このまま異常気象が続くと地球はどうなるのか

<https://secev.co.jp/nextmovement190703/>